

東京都立杉並高等学校 令和5年度第六十九回卒業式式辞

日一日と暖かくなり、梅がほころび早春を彩っています。例年より早く冬が終わり、善福寺川周辺にも春の息吹が感じられるようになりました。

まず、一月元日に石川県能登半島で震度7の大地震が発生し、土砂災害などで多数の死傷者と家屋の倒壊等の大きな被害が出ました。この場をお借りして、謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げます。

本日、ここに東京都立杉並高等学校を卒業していく六十九期生267名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。お子さま方が、本日ここに立派に卒業を迎えられたことは、何よりもご家族の皆様の支えや励ましがあったからです。卒業生の皆さんも、家に帰ったら必ずご家族への感謝の気持ちを伝えるようにしてください。また、ご多用中のところご列席くださいました来賓の皆様、日頃より本校にご支援、ご協力いただきありがとうございます。ここに、このような立派な卒業生を新たに社会に送り出すことができましたのも、皆様方をはじめ、たくさんの方々のおかげであると大変感謝しております。

さて、皆さんが入学した年は、新型コロナウイルス感染症拡大が終息しておりませんでしたので、マスクを着用しての入学式でした。体育祭も杉高祭も部活動も制限され、マスクを着用しての開催でした。二年生になって、入場を規制して体育祭、杉高祭を実施できるようになりました。部活動も感染予防を行いながら、大会やコンテストが行われた部が多かったと思います。修学旅行は三月に奈良・京都・大阪の修学旅行へ行くことができました。今年度になり、新型コロナウイルス感染症が五類に移行したことにより、六月に体育祭を保護者の皆様に観戦していただくことができました。また、本校の創立七十周年記念式典も全生徒、全教職員が一同に会し、多くの来賓の方にもご列席賜り挙行できたこと、特に二部では、生徒の皆さんの進行と演技で華やかで楽しかったことが思い出されます。さらに、九月には杉高祭を実施し、保護者の皆様に参観していただくことができました。学

校行事や部活動をとおして、皆さんが人間的に成長するのを大変うれしく感じたものです。これらの学校行事、そして勉強や部活動などに一生懸命に取り組んだ学校生活は、人類が新たにコロナウイルス感染症から復興するのと同様で変化し、どの年代よりも精いっぱい取り組んだ密度の濃い貴重な経験として、皆さんが振り返ることができるかと信じています。

さて、今日卒業生の皆さんが手にした卒業証書は、「本校の学びをすべて終えた」という証しであるとともに、「一人で社会に出て行っても大丈夫」という証しでもあります。皆さんは、これから社会の中で、自らの資質や能力を発揮して、答えのない課題を見つけ、組織の中でチームとして他者と協働しながら、新たな価値を創造し、社会に貢献することが求められます。そのためには、これまで本校で三年間学んで積み上げてきたものを、さらに発展・向上させ、自ら主体的に学び続けていくことが必要です。

現在、日本は少子高齢化が進み社会構造が大きく変化し、AIの飛躍的な発展の成果として、生成AI、例えばChatGPTが開発され、ユーザーが入力した質問に対して、まるで人間が話すかのように自然な対話形式でAIが答えてくれるようになりました。さらに、世界に目を向けると、戦争、紛争などが後を絶ちません。そして、環境破壊、海洋汚染、温暖化、貧困や食糧問題などの世界規模の課題が山積しています。そこで、私は、皆さんに世界の平和やこうした様々な課題解決に貢献することのできる人材になってほしいと願っています。さらに、皆さんには、日本だけではなく、世界に目を向け、高い志をもってグローバルな視点で物事を考えることを期待しています。

ある方から伺った話ではございますが、ここで紹介します。経済界では企業が求める人材について次のように述べています。「グローバル化や技術革新の波が急速に押し寄せる中で、膨大な情報から課題を発見、設定して、その解決策を見出すことは容易ではない。単純に先行モデルを模倣して成功する時代ではなくなっている。予測困難な状況下で課題設定力を身につけるには、常に社会情勢に関心を持つこと、世の中の出来事を当たり前の

ことと捉えず、なぜそうなるのかを自分なりに考える習慣をつけることが必要である。」また、「海外での事業展開や外国人労働者の増加、女性や高齢者の社会参加などにより、多様な価値観を持つ人々との協働の機会が増えているが、組織内では、自分と異なる価値観を持つ相手とともに成長し、組織全体の力を高めていける人材が必要である」と述べています。その上で、これから求められる能力として、次の四つを挙げています。「変化の激しい社会で、課題を見出し、チームで協力して解決する力」、「困難から逃げずにそれに向き合い、乗り越える力」、「多様性を尊重し、異文化を受け入れながら組織力を高める力」、「価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合う対話力」の四つです。

また、これから多くの皆さんが進むであろう大学においても、今、次のような学生が求められています。「すべての学生に期待するのは、学力と聡明さです。そして、関心の的が何であれ、率先して自ら行う行動力や独立心を持ち、本当にやりたいことに打ち込めること、また失敗を恐れず、立ち直れる力も欲しい」と、言っています。すなわち、大学で自分を成長させていくには、学力や聡明さ、行動力や独立心などとともに、精神的な強さが必要なのです。困難にぶつかった時、失敗した時に、簡単に投げ出さず、志を忘れずに立ち向かうことが重要であるということです。

そこで、卒業生の皆さんにはなむけの言葉を贈ります。校長室の掲示板のメッセージから一つ選びました。

「大切なことは、どれだけたくさんしたことや偉大なことをしたかではなく、どれだけ心を込めてしたかです。心を込めて仕事をしなさい。そうすれば、あなたは必ず成功します。なぜなら、そういう人はほとんどいないからです。どんなことでも心を込めて行うようにしてください。なぜなら心がこもったものは、相手を感動させる力があるからです。」

これはノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサ氏の言葉です。私が着任したときの入学式の式辞で新入生に送った言葉です。卒業生の皆さん、今の志を忘れずに、失敗しても、つまずいても途中で止めないで最後まで心

を込めてやり遂げてください。「水滴石穿」の精神で、心を込めてやり遂げれば、必ず何かを得ることができます。何か困難に直面した時に、このことばを思い出してください。そして、卒業後は、いろいろなことにチャレンジしてください。それでは、卒業生の皆さんの前途を祝し、限りない発展を願って、私の式辞といたします。ご卒業おめでとうございます。

入学式で皆さんの入学を許可した現在都立小松川高等学校北江校長より皆さんへお祝いを伝えて欲しいと言付かっておりますので、お伝えいたします。

令和六年三月二日

東京都立杉並高等学校長 高橋 聡